

優しい畳床 高齢者を守る

八代市の企業 開発



衝撃緩和型畳床「セーブ畳床」を敷いた和室で、模型(円内)を手にする岡部商事の岡部龍太郎社長(八代市)

転倒対策 内部に緩衝材

畳材製造販売の岡部商事(八代市)は、転倒時の衝撃を和らげる畳「セーブ畳床」を開発した。

2018年5月に制定されたJIS「衝撃緩和型畳床」の認証第1号で、高齢者施設や在宅で介護する一般家庭などの需要を見込む。

JIS規格制定を機に、昨年7月から開発。試作を重ねて完成させ、同12月にJIS認証を取得した。

八代産畳表を使い、内部に緩衝材として発泡ポリエチレンを入れた。厚さは55ミリ。クッション性はあるが、設置した家具が沈み込んで倒れたり、歩行や車椅子の走行を妨

げたりしない適度な硬さを保っているという。

価格は通常の畳より3割ほど高いが、介護保険制度の住宅改修の対象で、リフォーム費用の最大9割の補助が受けられる。国土交通省の「次世代住宅ポイント制度」の対象にもなる。

昨年12月に発売し、初年度は千枚の販売を目指す。岡部龍太郎社長は「高齢者の骨折や大けがを防止、介護する人や子どもにも優しい床材として県内外に売り込み、県産イ草の需要拡大につなげた。畳を通して大切な家族の健康を守ってほしい」と話す。(中村悠)